



多木肥料の流し込み施肥

困った!!
一発施肥で肥切れが...

そんな時に!! 流し込み施肥で
イネの元氣を取り戻そう!

多木V化成の流し込み施肥は・・・

この流し込み施肥は、元肥一発施肥の生育後半における高温や地力低下による肥料切れを補うための施肥です。

1. 特長

- 多木肥料の流し込み施肥は、水口に**多木V化成**を置くだけで簡単に施肥が出来ます。
- 肥料袋に切込みを入れることによって袋内に水が入り、肥料が水と空気で攪拌され液肥状態で袋から肥料が出て行き、均一に広がります。

2. 流し込み施肥に適した水田条件

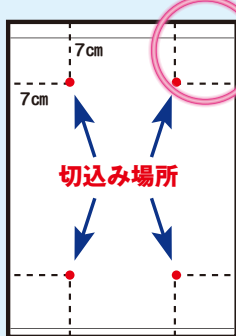
- 水流がある程度確保できる（10aの水田で1時間に1cm以上、30aで3.3mm以上の水が入る水田）
- 水田面の高低差が少ない（高低差は3cm以内が望ましい）
- 水田の日減水深が大きくない（日減水深が3cm/日以下が良い）
- 7cm程度の水を溜められる（高い畦の水田が適している）

3. 肥料袋への切込み方法

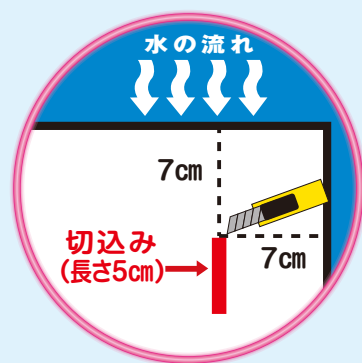
①切込み場所

②切込み方向と長さ

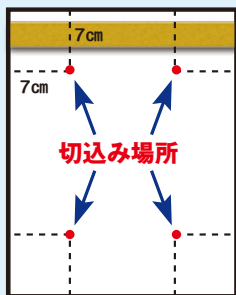
20kg
を施肥する場合



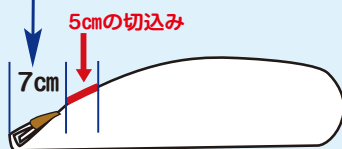
- 袋の表裏ともに四隅からタテ7cm、ヨコ7cmを測り、交わる部分に**長さ5cmの切込みを4ヶ所（表裏計8ヶ所）**に入れる。
- 切込みは**水の流れと同じ方向**に入れる。



10kg
を施肥する場合



端を**7cm以下**に折り込んでテープを貼る



横から見た袋イメージ

- 10kgを施肥する場合は、10kgを別に取り除き、袋を**折り込んで**小さくし**テープで密封**する。
- 切込みは20kgと同じ方法で行うが、**端から7cmの位置**に袋の**折り込み部分がない**ようにし、**重なっていない部分**に5cmの切込みを入れる。

4. 流し込み手順

1) 肥料の準備 多木V化成 (15-5-15)

2) 流し込み前の準備

- ①水を落とす・・・足跡水程度～1cm程度の水が溜まっている状態にする。水田に高低差がある場合は、高い場所で土壌水分が飽和状態にする。中干し後で、土壌にヒビがある場合は、ヒビの中に水が溜まっている状態にする。
- ②水尻を閉める・・・畦から水漏れがないか確認する。
- ③肥料を水口に設置する
 - 水口に設置し、肥料の上側を水口に向けて置く。肥料はひとつの水口に2個までは並べて置くことができる。
 - 肥料袋の水上側を杭などで固定しない。
 - 肥料袋を設置する場所が低い場合は苗箱やブロックを敷き、土壌面と同じ高さにする。

※施肥量と設置方法 (一回の施肥量はチッソ成分で1～2kg/10a)

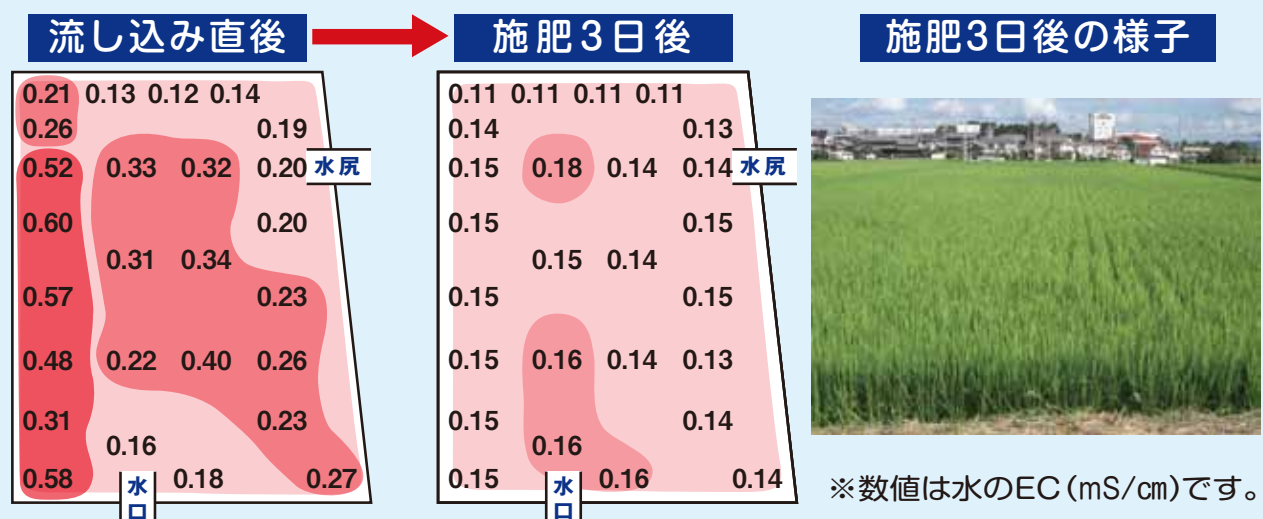


3) 流し込みのスタート

- ①水を入れる・・・水流は勢いがあつた方がよい。最初は肥料袋の下穴から水が入り、肥料が溶け始める。
- ②肥料が溶ける・・・溶ける時間は水流によって異なるが、1～2時間程度です。
- ③肥料がなくなる・・・肥料が袋の中に500g～1kg/20kg袋程度残ることがある。その場合は、袋から肥料を取り出し直接流し込む。
- ④さらに水を流す・・・**水だけを1時間以上**流し込み、水深が7cm程度まで水を入れる。
- ⑤水を止める・・・水口からの流入や、水尻からの漏れがないか確認する。
- ⑥数日間水を静止・・・3～4日間水をそのままにし、自然の減水にまかせる。

5. ECから見た流し込みの均一性 (流し込み圃場の一例)

施肥3日経過すると、圃場の肥料濃度は均一になります。



※数値は水のEC (mS/cm)です。